

新任校長雑感

西米良村立村所小学校

校長 尾崎 正朗

本校は、宮崎県の中央部西端の位置し、周りは米良三山（市房山・石堂山・天包山）等を代表する1000mを超える山々に囲まれた自然豊かで静寂な山村に位置している。西米良村ならではの行事が多く、春は山菜まつり、夏はやまびこ花火大会、秋は村民による運動会や文化祭、冬は西米良村各地区における夜神楽など、四季折々の多くの行事が盛大に執り行われており、学校が直接関わるものも多い。また、本校は歴史も大変古く、明治9年に本校の母体となる小学校（支校）が設立され、本年度で設立127年目を迎える。

本村には男爵 菊池武夫 公 の「礼節」「励む」「粘る」「尽くす」の菊池の精神が脈々と受け継がれてきている。本校ではこの教えを学校教育目標の具現化の軸にしながら、児童の豊かな学びの実現を目指し、目下全職員をあげて奮闘中である。特色としては、ICT教育の推進で、平成24年度からICT教育の環境づくりが本格的に始まり、平成28年度には児童一人一人にタブレットが導入されるなど、県内に先駆けた先進的な取組が展開されてきている。

正直なところ、自分はデジタル方面は不得手としており、スマホは保持しているものの、その活用は、通話とメール、時々調べ物に活用するくらいで、できると便利で楽しいであろう多くの機能については、全くの未知の世界である。ましてや授業でタブレットを使いながら児童に豊かな学びを提供していくとなると、至難の業であるとしかいいようがない。しかし、本校の授業を見ると、担任も児童も、タブレットをはじめ様々なICT機器を実に巧みに使いこなしながら学習を進めている。しかも、それらの機器の活用によって、教育効果が児童の様子から確実に上がっていると感じる。さすがである。

しかしながら、感心してばかりはいられないので、自分もデジタル機器について児童が使えるくらいはマスターしなければと思い、先日1年生の授業に参加し、タブレットの使い方について学んできた。「校長先生、電源のスイッチはここです。」「タッチペンを使いたいときは、ここを押すとペンが出てきますよ。」「写真や動画はこんな風に撮るといいですよ。」など、優しく丁寧に1年生から教えてもらった。分からないことは優しく丁寧に教えることの大切さが1年生とのやりとりで身にしみて分かった。

11月は「教育の情報化」の研究公開を控えている。それまでにはきっと使いこなせているに違いないと自分に言い聞かせるようにしている。